

【「ごんぎつね」授業記録⑦】

T 今日、二章の終わりまでやるので、ざっと読んでくれ。
C 読む。

T しばらくとんだので、前のところを朗読して、今日の場面にいきます。
みんな三の始めにもどって。

北斗 朗読

「兵十が赤い井戸のところ……まずひとついいことをしました。」

T 今日はその続き。先生が読みます。

「次の日には、山でくりをどっさり拾って兵十のうちにきました。」

次の日、って、何の次の日？

義昌 罎をあげた次の日。

T いわしをほうりこんだ、次の日。

こう書いてあります。

「ごんは、山でくりをどっさり拾って、それをかかえて兵十の家へきました。」
兵十のところへ、何でくりを持っていくの？

C つぐない。

T もういつぺん大きな声で。

北斗 うなぎのつぐない。

T ほんでいいかい。兵十の家へもっていくのは、つぐないで持っていく。みんなほんでいいかい？

康治 ほんなこととちがう

前のときにな、「まずひとついいことをしました」やから、まだまだするの。

俊介 いわしをほうりこんだだけでな、おつかあを殺してしまったことのつぐないは、い
わしだけじゃ物足りひん。

T ほう。これ「いわし」もおつかあに悪いことしたなあっていうつぐないや言うたね。

そのために、康治は、「まず一ついいことをした」と書いてるから

康治 まず一つだから、一つや二つじゃない。

T だから、ここにはもつともつとしてやりたいという気持ちがある。だから、その次の日
もくりを持っていくんだ。それでいい？

C うん

T じゃ、その時、これを持っていくとき、どんな顔してもっていつてる？持っていくとき
のごんの顔。……浮かべてみて……すまなさそう？ 勇太

勇太 うーんわからん

俊介 しんけん

T なんやて？ここへもっていくときの顔はしんけんそんな顔がする、ていうてやる

義昌 しんけんじゃなく、うれしそう顔

T えっ？義昌は、うれしそう顔？

安裕 よっちゃんにちかい

C よっちゃんといっしょ

義昌 喜んでくれると思っとうれしそうな顔。

安裕 にこにこしている。

ほれからな、もう一個あるんやけどな、……忘れた。

T 今、二人聞いたら、俊介は、真剣そうな顔が浮かんでくる、いうし、義昌は、なんかうれしそうな顔が浮かんでくる。安裕もにこにこしてる感じがする。みんなはどう？

勇太、今の聞いててどう？

勇太 ……うーん

T じゃ、もういっぺん読んでみましょう。ここのごんは、どんな姿でもって行ってる？

ああいやだな、つらいなっていうのか、まじめに真剣なのか、それともうれしそうにわくわくなのか、自分自分でちょっと考えてごらん。

C 読む

T どう？……圭吾、おまえは？

圭吾

宏 あんな、うれしそうにやったらな、気抜いてるみたいやでな、もし失敗したらな、兵十にやられるから真剣にしてる。

T 宏の聞いててどう

和寿 にこにこしてたらな、気抜いてて、もしかまったらな殺される。いつもあぶなそうに真剣にやっている。

T 宏君は、償いにいいことかと思ってるけど、兵十は、何もそんなこと知らないね。いたずらしてきた相手だから、そんなのんきなことできない。兵十にへんに思われなように真剣なんだ。というのね。そういう読み方。

安裕 「どっさり」っていうのはよ、なんか兵十が喜んでくれる。

T 何やて、もういっぺん。

安裕 「どっさり」というところでな、兵十が喜んでくれると思ってる。

T ほう。……まいちゃん

麻衣子 どっさりっていうのは、何か、喜んでくれるように一生懸命いっばい拾ってるんだから、きつと喜んでくれると思っ顔もにこにこしている。

義昌 簡単に言えば、想像している。

T どういうこと？

義昌 喜んでくれると

T 「どっさり」に感じている人ある？……なんか「どっさり」を読むと、真剣もあるけど、うれしいんちゃうかなあというてる人があるんやけど。

C ……

T みんな、「どっさり」って言ったらどういふこと？

義昌 いっばい

C 山ほど

T しかも「抱えて」ですから、こんなん（つかむ）じゃないですね。

どうしてどっさりなんだろう。そこには、どんな思いがあるんだろうって考えてくれへん。

迪彦 それだけ、おかえしがしたかったんちがう

T どういうこと？

迪彦 それだけ、お返しがしたかった。

義昌 兵十が頼りにしてた人を殺してしまったから。

T 待ってくれよ。今、「どっさり」の中には

安裕やらはこういうてる。よろこぶやろうなつてにこにこがある。

安裕兵十の家ではつかまるかもしれないけど、集めるところでは、にこにこして喜んでくれるやろうなと思ってる。

T 今の安裕のわかる？

義昌 忘れた

康治 どっさりというのはな、ごんは、ちよつとやったら自分の気持ち、兵十わかってくれやらへんけどな、いっばいやつてたら、わかってくれやるかもしれない。でな、どっさりT書いていくぞ。康治は、いっばいやつてたらわかってくれやるやろう。

義昌 いっばいやつてたら信用してくれる。

宏 どっさりな、兵十がいくらもつていってもおつかあはいきかえらへんから、自分は死ぬ覚悟して、いっばいいいっばい、兵十にあげてる。

T うーん、じゃやつぱり真剣か。……くみちゃんはどうかな。

久美子 兵十のおつかあを自分で殺したと思ってるから、ごんは死ぬ覚悟で、ごんの一升を兵十に預けてる。

T ほう、……ほんとに悪いことしたなあという気持ちがいっばいで、

宏 もういたずらは忘れてる。

T くみちゃんもほう言うてるのか。

あんなにひどいことしちゃったなあ、という気持ちでいっばいで。

そうすると、今、こういう意見がふくらんでるみたいね。

くみちゃんも、つぐないの気持ちがいっばいあるんだ。すごいつぐないせんならんと思つて真剣になっている。

そう、みんな読む。

勇太 うれしいんちがう

T 勇太、何、言つて

勇太 うーん

T うれしさは、このとき、全くなかつたんだらうか

和寿 うれしいんちやうかつて。

C ……

勇太 あんな、ごんは、うなぎの償いにまず一ついいことをしたと思いましたが、といったやん。だから、いいことをしたから、うれしそうににこにこ。

C ああ、いっしょや。

T おつ、今の勇太の、誰かもらえる人ない？ここで、「まず一ついいこと」うれしさがあつたから……今、勇太が言いかけたこと、誰か

真剣。その気持ちもいっばいあるやろうけれど、なんか、ほんと悪かつたなあ、という気持ちだけか？

C ううん

T ちがうのがあるって言う人があるんやけど、勇太がせっかくだしかけたの誰か、もらえん

安裕 勇太君がいわつたのは、いいことをしたというのは、な、兵十が喜んでくれるやろうと思つてにこにこしているの。ほれにな、

義昌 兵十が喜んでくれると思つてる

T おつ、めぐみちゃんが何かあるみたい

めぐみ あの、死ぬ覚悟で行つてるんやったら、真剣とかぬけて、

死ぬ覚悟やったら、真剣でいかんと、どっさりもつていつて、見つかつて死んじやえみたいな感じで行つてるから、……また、一個つぐないができたなつてうれしい感じ。

T ……まず、一つ償いができてうれしかった。これがここ「どっさり」につながる、言うてやるんやけど。

まず一ついいことをした、だから、……勇太はそういうことを言つてるんだけど。

C ……

T むずかしいかい？。そんなことないぞ。

真剣だけかい？、悪かつただけかい？ その気持ちでどっさり持つたの？

これぐらいじゃ足りない、兵十は許してくれない、そういう気持ちでどっさり集めたの？

C ちがう

安裕 ただ、兵十が喜んでくれること

T ……誰か、そこ、……真剣だけじゃない、何かがあるんじゃないかなあつて。……

おつ、祐介

祐介 うんとな、ごんはな、元気だしてでなくてな、ごんはおつかあいたずらして死んだやん。……

T みんなも考えてて。……祐介考えてることまつまつたら言つてくれ。

安裕、その三人、言つてくれ。

康治 つぐないをしているうちにな、つぐないしてるのが楽しくなつてくるの。

T あれ、ヒントにして、つぐないが、楽しくなるつて。

はい、宏

宏 兵十が喜んでくれることなら何でもするから、にこにこするの。

T 兵十が喜んでくれることなら何でもする。兵十のことをしてやっていると、うれしくなつてくる。

安裕 ふつうにどっさりひろつてたら、なんか、兵十が喜んでくれそうな気がしてよ、なんかにこにこして、どっさりひろつてたら、兵十がよけい喜んでくれるような気がする。

T 麻由ちゃん

麻由 ……

T あいつらの感じとることわからん？なんかつぐないは、悪いことしたからすまんなあつておわびしていくんやからそんでいいんやけど、それしているうちに、うれしくなつてくる。もつと兵十にしてやりたくなつてくる。……どうしてそんなになるんやろ。

読めば書いてない？

麻衣子 いわしを勉強したときに、弥助のおかみさんが、兵十のおつかあに見えたという

のがあつたやん。ほんで、ごんが兵十のおっかあのだわりになるっていうことで、いわしをあげた。ほんで、くりも、なんか、あげるのは、おっかあやったら、兵十のためにどっさり拾って喜ばせるだろうと思つて。

T まいちゃんのことってのは、ただの償いじゃなくて、兵十のおっかあになつたような気持ちもある。

宏 あんな傷までつけられたのか、のところで、もっともつとやりたくなる。

T 後の方でその気持ちもつとふくらんでくる、いうんやね。

もうひとつ聞くけどね、前、誰かが書き込みでかいといたんだけどね。

ごんは、今までこういうことをしたことがあつたの？なかつたの？いわしの時。

兵十にいわしを放り込んだ。これはいたずらですか。

C ちがう

T 兵十のためにしてやった。今までは、さからつていたずらしてたんやね。

でも、まず一ついいことをした、というのは、兵十のためにしてやったということもあるけど、ごんが何か人のためにしてやったということも初めてだった。そこから

C ……

T もういつぺん読んでみて……ごんが兵十をどういうふうに見ているのか

C おれと同じひとりぼっちの兵十か。

T それもヒント

祐介 もどるんやけどな、兵十だけじゃなくてな、おっかあにもやつてる

T おっかあは死んでるけど。死んだおっかあの方も、つて気持ちを込めてるということか

祐介 うん。

T ……むずかしいな。ほんでいいんやけど、

先生、ここ読んでてな、悪かったなあつて気持ちでもつていつてるような気が全然せんのかやけどなあ。みんなはほうは、おもわんかい。

さつきから、安裕やまいちゃんがいつてるのが、そういう気がするんやけど。

次の日には山でくりをどっさり拾つて。……どうしてどっさりひろうんかなあ。

久美子 なんか、初めていいことをしてるんやけど。おもしろい。わくわくしてる。

安裕 いたずらよりもおもしろい。

T そこ！いたずらよりも、……そこだけか

智美 なんか、ごんが目覚めたというか、そっちの方がおもしろいというか。

T そっちの方がおもしろい。誰か、そこ、言える人ない

C はい！

めぐみ いたずらはすごくおもしろかったけど、いたずらよりもおもしろいものを見つけた。

祐介 ごんはいたずらばかりしてたけどな、くりをどっさりとかしてたらな、こっちのほうが好きになつたん。

T その中身や。いたずらして人をさかろてるよりも、何か、今してることの方が……

C はい！

祐介 やめられへん。

T その中身や。

今までいたずらばかりしてたけど、それよりも、もっと楽しい。

義昌 いたずらしてたらな、最後まで気持ちがすっきりしいひんけどな、おかえししてたらすっきりする。

C あっ、はい

T おっ、いたずらしても心はすっきりしいひんけど、なんか、これはすっきりしていくんやて。

康治 よっちゃんがいったみたいにな、あの、今までとはちがういたずらでな、いつもやったらしまつがつかんけどな、これやとしまつがつく。ほんで楽しい。

T 麻由ちゃん、何か言える？言ってみて

麻由 前はいたずらばかりしててな、村の人とかはな、いやな顔をしててな、いたずらした後はな、ごんはその顔をいつも見てるけど

T おっ、すごいこと言ってる。太志聞いていよ。麻由ちゃんもういっぺん立って言ってる。

麻由 いたずらしてるときは、村の人たちがいやな顔をしているのは知ってるけど、兵十にくりやまつたけを持って行って、うれしそうな顔をするの、どんな顔してるか、わくわくする。

T 今までいたずらするたびに、いやな顔みてたけど、このときは、どんな顔してくれるかなあてにこにこした顔を浮かべるのがうれしい。

宏 こんないい気分になったのは初めて。

T あれ！こんないい気分になったのは初めて。浩二、わかるかい。いたずらよりもずっといい気分なんや。

T 今、宏やらが言うことわからんかい？ぼんやりとでも感じたことをだして行けばいい。

北斗 いたずらして、村の人にいやな顔されたら、心はすっきりしいひんけど、いいことをして、いいきつねやなと思われたら、心もすっきりする。

久美子 いたずらばかりしていやな気分やったんやけど、いいことして、すかっとした気分であれしくて、いたずらしてたときのことを忘れてしまう。

宏 いたずらでいつも兵十とやってるけど、こんどは、兵十といっしょに楽しく遊んでいくというか。

T あれ！またすごい。もういっぺん言ってる。

宏 今までは、いたずらで兵十といっしょにいたのに、今度は、いっしょにやらしてるみたいにな、いっしょに遊んでるみたいにな。

和寿 前はいたずらばかりしてるんやけどな、こんどは、兵十といっしょにな、家で暮らしてる見たいな感じがするん。いたずらもやめて、遊んでるみたい。

T またちがう中身が出てきたぞ。さっきは、人のために何かしてやる。それがとってもすっきり気持ちがいいって、言ってたね。それと、今度宏やらが言い出したのは、ごんと兵十がいっしょにいるみたいでうれしいんやて。

祐介 今までは、ひとりぼっちやったんやけど、だんだんしていったら、一人ぼっちやったのが、兵十と暮らしてるみたいなん。

T ほれ。今の祐介のもらえる人ない？今まではごんは一人ぼっちやったのが、何か、

和寿 ゆうちやんのに似てるのやけどな、今まで、いたずらばっかりして嫌われて一人ぼっちやったけどな、こんどは、兵十となかようになってな、友達みたいに思ってる。

T 清貴、わかる？祐介の聞いてまた言ってる。

祐介 なんか友達ができた気分。

T 友達ができたうれしさ。

康治 兵十のおっかあはな、殺してしまったからな、償いとかしているうちに、ごんがいつぱいしてやってるから、ごんが兵十おっかあになってるみたい。

T 今までの他人じゃなくて、兵十といっしょの

安裕 一人ぼっちと一人ぼっち

T 一人ぼっちと一人ぼっち？

安裕 一人ぼっちがいっしょやさかいな、兄弟みたいになって、兵十はごんのこと、兄弟とは思ってへんけど、ごんは、兵十のことを兄弟みたいに思っている
T わかった？

兵十が一人ぼっち。ごんも一人ぼっち。ほれで何やて。

安裕 兄弟みたいやしな、ごんは、兄弟みたいに思ってる。兵十は思っていないけど。

T うん、兵十はそんなこと何もしらんけど、ごんは、「おれと同じ一人ぼっちやなあ」て兄弟みたいに思ってる。

おっ賢児

賢児 ごんは、お父さんとお母さんいいひんやん。兵十かていいひんやん。だから、ごんは一日でも苦労してるから、兵十も苦労してるからいろんな物もっていつてやる。

T 今いいこと言った。もういっぺん言ってる。

賢児 ごんは、お父さんお母さんいいひんしな、兵十もいいひんさかい、ごんは、一日くらすのに食べ物やら苦労しているから、兵十も貧乏だから苦労しているから、いつぱいもっていつてやるの。

T 賢児のいうとることわかる？ごんは、兵十の気持ちがようわかるんやて。

苦労してることがわかる

義昌 けんちゃんのこと、ライバルのことが今は兄弟

T うん、賢児は、こういうとるんやぞ。兵十のことがようわかるんやて。

義昌 ひとりぼっち同士やで。自分も小さいときから一人ぼっちやで、兵十の気持ちがよくわかる。そやで、今は家族みたい。

英和 あのな、一人ぼっちと一人ぼっちだから、いっしょに暮らしてるみたい。

宏 けんちゃんので簡単にいうとな、一緒に力をあわせて、暮らしてる。

祐介 ごんは、兵十を見ててな、お父さんがいてるみたい。

俊之 兵十はごんのこと何も思ってるへんけどな、ごんは兵十のことが好き。

T 整理すると、どっさり拾っての中に、どんな思いがあったか。

人のためにやって、とつてもすつきりするといっしょうれしさがある。

それから、一人ぼっちのつらさがようわかるから持つていつてやる。

それから、一人ぼっちの友達どうしになつたよううれしさがある。

たつた3行の勉強だけど、いつぱいいろんなことが読めますね。

